



試験科目(論文)

受験番号	番
フリガナ	
氏名	

(二) 以下にあづける人物や用語について 解説しなさい。

① 日蓮宗

---

---

---

---

---

---

---

---

② 夢幻能

---

---

---

---

---

---

---

---

③ 三浦野郎

---

---

---

---

---

---

---

---

④ 八行転呼音

---

---

---

---

---

---

---

---

採点欄

試験科目(論文)

受験番号	番
フリガナ	
氏名	

(三) つぎの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

薬師寺に、証空律師と云ふ僧ありけり。よはひたけて後、辞して久しくなりにけるを、「彼の寺の\*別当の關に、望み申さんと  
思ふは、いかにあるべき」と云ふ。弟子たるに、同じさまに、「あるまじき事なり。御年だけ給ひたり。つかさを辞し給へるに付  
けても、必ずおぼす所あらんかし」と、人も心にくく思ひ申したるを、今更さやうに望み申し給はば、思はぬなる事にて、人も心  
劣りつかまつるべし」と、ことわりを尽していみじう①いさめけれど、更に、げにと思へるけしきなし。いかにも、そのころさ  
し深き事と見えければ、すべて力及ばず。弟子寄り合ひて、此の事を嘆きつつ云ふやう、「此の上には、いかに聞こゆとも、聞き  
入らるるまじ。いさ、空聲を見て、身もたえ給ふばかり語り申さん」とぞ定めける。

日比て後、静かなる時、ひとりの弟子云ふやう、「過ぎぬる夜、いと心得ぬ夢なん見え侍りつる。此の庭に、色々なる\*鬼の  
恐しげなる、あまた出で来て、大きな釜を塗り侍りつるを、あやしく覚えて問ひつれば、鬼の云はく、『此の坊主の律師の\*料  
なり』と答ふるとなん見えつる。②何事にかは、深き罪おはしません。此の事心得ま侍るなり」と語る。即ち、驚き恐れんと思  
ふほどに、耳もとまで笑みまげて、③此の所望の叶ふべきにこそ。披露なせられそ」とて、拝みければ、すべて云ふばかりなく  
てやみにけり。

(『発心集』より)

【注】

- \*別当の關 寺務を総轄する僧官の欠員。
- \*鬼 地獄で死者を責める鬼。
- \*料 「〜のため」という意味。

採 点 欄

試験科目(論文)

受験番号	番
フリガナ	
氏名	

問一 傍線部①「いちめけれど」とあるが、誰が誰に対し、どのようないちめたのか、説明しなさい。

問二 傍線部②「何事にかは、深き罪おはしません」を現代語訳しなさい。

問三 傍線部③「此の所望の叶ふぐきにこそ」とあるが、なぜこのように思ったと考えられるか、その理由を説明しなさい。

問四 『癡心集』の作者は『方丈記』を書いた鴨長明である。『方丈記』について、説明しなさい。

採点欄
-----